

## 各実現方策及び取組内容の評価結果

【安全】県民生活を支える安全な水の供給		
ア. 高度浄水処理の導入	大久保浄水場は基礎杭設置工事を実施したほか、本体工事を発注した。吉見浄水場は引き続き実施設計業務委託を行った。	順調
イ. 水源から給水栓までの統合的水質管理	水安全計画に基づく水質管理を行うとともに、流域の水道事業と連携した広域的な水源監視や、原水水質に応じた適切な浄水処理の実施により、水質基準適合率100%を達成した。	
ウ. 水源の水質保全	国等関係機関への水源汚染防止に係る働きかけを行うとともに、水源清掃活動等のイベントを通じて啓発活動を実施した。	
【強靱】事故・災害に強い水道の構築		
ア. 水道施設の災害対策	管路耐震化(更新)の推進のため、合理化・効率化を図った管網の将来構想を検討し、施設整備計画を策定した。また、施設整備計画に基づき共同幹線、所沢幹線の設計業務や重要路線の更新ルート選定を実施した。	概ね順調
イ. 広域的な水運用機能の強化	吉見浄水場拡張関連整備(Ⅱ期)事業の工事を鋭意推進しているが、東松山第二幹線の布設ルートの見直し等に伴いⅡ期事業の期間を3年間延伸した。また、最新の水需要予測に基づき、供給エリア再編について検討し、施設整備計画を策定した。	
ウ. 災害時即応体制の確立	各種訓練を実施するとともに、復旧資材の備蓄管理や水総合管理システムを用いた水運用調整により、災害時即応体制を確保している。また、能登半島地震では被災地に職員及び給水車を派遣した。	
【持続】強固な運営基盤の構築		
ア. 水道施設の計画的な更新	アセットマネジメントの手法に基づく計画的な施設更新に資するため、施設の点検を適切に実施した。また、浄水場更新について検討し、長期的な視点から施設整備計画を策定した。	順調
イ. 施設の有効活用及び施設能力の最適化	変動給水の試行などにより、県水転換率の維持・向上に努めた。また、最新の水需要予測に基づき、浄水場更新とも調整しながら施設規模の適正化を検討し、施設整備計画を策定した。	
ウ. 人材・技術力の確保	企業局職員研修計画に基づき継続的に技術継承を実施した。	
エ. 広域連携の推進	受水団体との技術連携の取組を通じ、連携協定を締結した6市町(R5年度1町追加)に対して技術支援を実施し、受水団体の課題解決を推進するとともに、双方の技術力向上を図った。また、広域化検討ブロック会議において、資材の共同購入や委託業務の共同化等について意見交換した。	
オ. 経営基盤の強化	次期料金算定に向け、資産維持費や長期前受金控除を算定項目に加えた収支シミュレーション等を実施した。	
カ. 環境負荷の低減	効率のよい運転や浄水発生土の有効利用により、環境負荷の低減に努めた。各浄水場の送水圧力低減等を実施した。	
キ. 水質検査結果や水安全計画等をHPで公表するとともに、水質情報については、異常値の検出等があった場合は迅速に受水団体と情報共有した。		
【利用者とともに歩む水道】利用者のニーズに応えた事業運営		
ア. 水道利用者及び受水団体ニーズの把握	アンケートや受水団体訪問等により、水道利用者・受水団体のニーズの把握に努め、受水団体からの増量要望等に対し柔軟な水運用により対応した。また、原水水質に応じて適切に浄水処理を行うとともに、残留塩素濃度の管理を実施した。	順調
イ. 利用者のニーズに応じた、より良質な水道水の供給		
ウ. 水道水の安全、水質に関する情報の適切かつ迅速な提供	水質検査結果や水安全計画等をHPで公表するとともに、水質情報については、異常値の検出等があった場合は迅速に受水団体と情報共有した。	
エ. 利用者が理解しやすい広報活動の充実	県庁オープンデーや荒川水管橋見学会といったイベント等において広報を実施したほか、(公社)土木学会の「魅力ある土木の世界発進プロジェクト」による土木職の魅力を発信する動画撮影に協力した。	